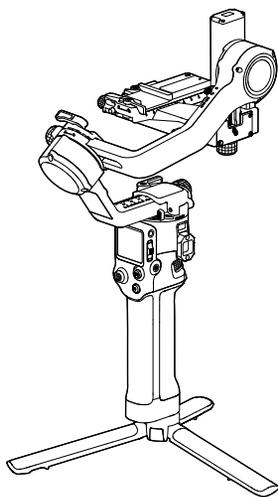


# **dji** RS 5

## ユーザーマニュアル

v1.0 2026.01





本書は、DJI の著作物であり、すべての権利は DJI に帰属します。DJI から別途許可されていない限り、本書の複製、譲渡、販売を行ったり、本書または本書の一部を使用、または他の人に使用を許可したりすることはできません。ユーザーは、本書とその内容を DJI 製品の操作に関する指示を参照する目的にのみ使用してください。本書を他の目的で使用しないでください。言語版によって相違がある場合には、英語版が優先されます。

### キーワードの検索

「バッテリー」や「取り付け」などのキーワードを検索することでトピックを探すことができます。Adobe Acrobat Reader を使用して本書をお読みの場合、Windows では Ctrl+F、Mac では Command+F を押して検索を開始できます。

### 任意のトピックに移動

目次の全トピック一覧が表示されます。トピックをクリックすると、そのセクションに移動します。

### 本書を印刷する

本書は高解像度印刷に対応しています。

# 本マニュアルの使用方法

## 凡例

 重要

 ヒントとコツ

 参考

## ご使用前にお読みください

DJI™は、チュートリアルビデオと次のドキュメントをご用意しています。

1. 『安全ガイドライン』
2. 『クイックスタートガイド』
3. 『ユーザーマニュアル』

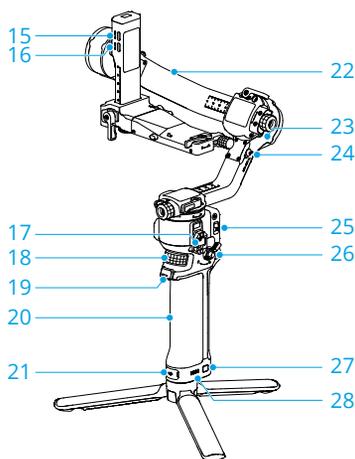
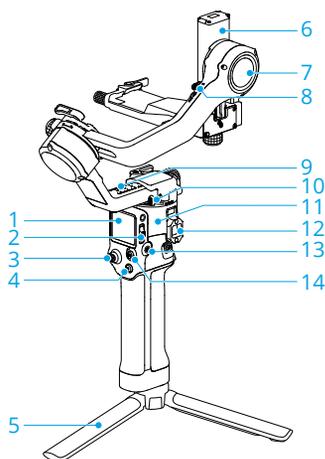
すべてのチュートリアルビデオの視聴をお勧めします。初回使用前に、『安全に関するガイドライン』をお読みください。初めて使用する前に、必ず『クイックスタートガイド』を確認し、詳細について『ユーザーマニュアル』を参照してください。

# 目次

本マニュアルの使用方法	3
凡例	3
ご使用前にお読みください	3
1 概要	6
2 初めてのご使用にあたって	7
2.1 充電	7
2.2 延長用グリップ/三脚の取り付け	7
2.3 カメラを取り付ける	8
対応するカメラとレンズ	8
準備	8
上部クイックリリースプレートの取り付け	9
横向き撮影	9
縦向き撮影	10
2.4 バランス調整	12
バランス調整を行う前に	12
バランス調整の手順	12
2.5 アクティベーション	12
2.6 ファームウェアの更新	13
2.7 カメラへの接続	13
2.8 自動キャリブレーション	14
3 操作	15
3.1 ボタン	15
3.2 ポート	17
3.3 タッチ画面	18
ホーム	18
下にスライド : Control Center (コントロールセンター)	19
上にスライド - ジンバル設定	20
左にスワイプ - 作成画面	21
右へスワイプ - アクティブトラック	21
3.4 ジンバルフォローモード	21
3.5 ジンバル操作モード	23
3.6 電子ブリーフケースハンドル	25
3.7 Ronin アプリの設定	26
3.8 強化インテリジェント トラッキングモジュール	26
概要	26
取り付け	27
アクティブトラック設定	27

トラッキングと撮影	28
ボタンとジョイスティックによる操作	29
ジェスチャーによる操作	29
タッチ画面での操作	31
ファームウェアの更新	32
<b>4 グリップ/内蔵バッテリー</b>	<b>33</b>
4.1 安全ガイドライン	33
<b>5 付録</b>	<b>36</b>
5.1 メンテナンス	36
5.2 仕様	36

# 1 概要



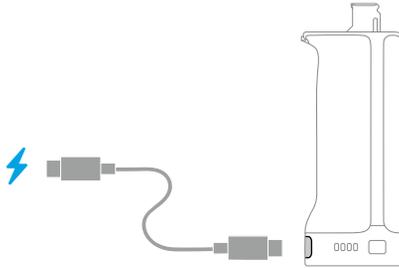
1. タッチ画面
2. ジンバルモードスイッチ
3. ジョイスティック
4. カメラ制御ボタン
5. クイックオープン三脚
6. チルト軸
7. チルト軸モーター
8. チルト軸ロック
9. パン軸
10. パン軸ロック
11. パン軸モーター
12. NATO ポート
13. 電源ボタン
14. M ボタン

15. 多機能ポート
16. RSS カメラ制御ポート (USB-C)
17. RSA/NATO ポート
18. フロントダイヤル
19. トリガー
20. バッテリーグリップ
21. 充電ポート (USB-C)
22. ロール軸
23. ロール軸モーター
24. ロール軸ロック
25. ジョイスティックモードスイッチ
26. グリップレバー/安全ボタン
27. バッテリー残量ボタン
28. バッテリー残量 LED

## 2 初めてののご使用にあたって

### 2.1 充電

初めて使用する際は、バッテリーグリップを充電してバッテリーをアクティベートします。バッテリーインジケーターが点灯するとアクティベーションは完了です。



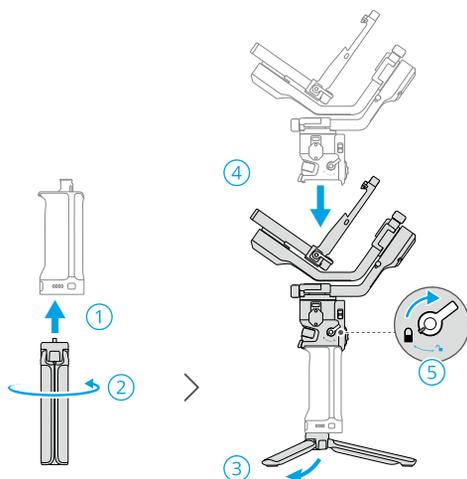
💡 電源オフ時、電源ボタンを押すと、現在のバッテリー残量を確認できます。

### 2.2 延長用グリップ／三脚の取り付け

1. 三脚をバッテリーグリップに取り付け、締めつけて、三脚を展開します。
2. 軸アームから発泡スチロールを取り外した後、ジンバルをバッテリーグリップに取り付けます。「カチッ」と音がするまでロック方向にグリップレバーを締め付けて、ハンドルがしっかりと固定されていることを確認してください。

⚠️ それ以上回転できなくなるまで、グリップレバーをしっかりと動かします。矢印はロックの方向のみを示し、完全にロックされた位置を示していません。

💡 取り外せない場合は、レバーをロック解除位置に動かし、安全ボタンを押し下げたままグリップをジンバルから引き抜くことを推奨します。



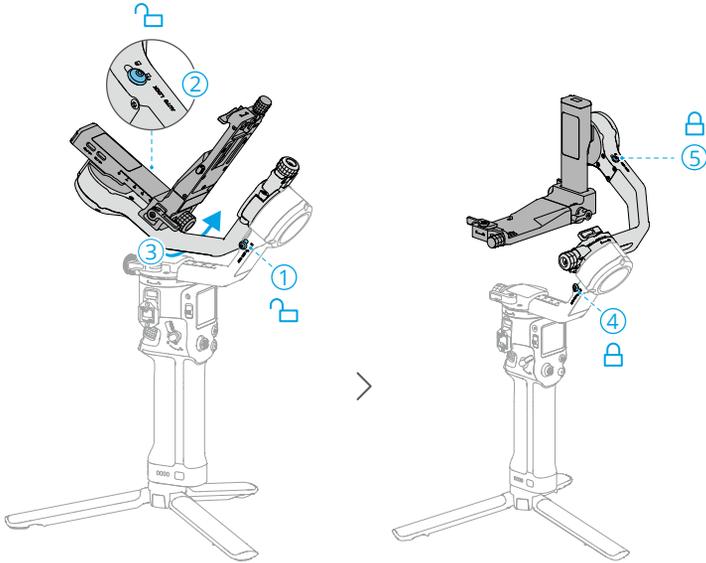
## 2.3 カメラを取り付ける

### 対応するカメラとレンズ

仕様に関する情報については、<https://www.dji.com/rs-5/specs> にアクセスしてください。カメラ、レンズ、その他のアクセサリーの合計重量が負荷容量内であることを確認してください。対応するカメラレンズとサポートされている制御機能については、『[Ronin シリーズ対応リスト](#)』を参照してください。

### 準備

1. レンズキャップを取り外し、カメラのバッテリーとメモリーカードが挿入されていることを確認してください。
2. ジンバルの電源がオフ、またはスリープモードになっていることを確認してください。
3. チルトおよびロール軸ロックをそれぞれロック解除位置に動かし、図に示されているように両方の軸の位置を調整してから、軸をロックします。



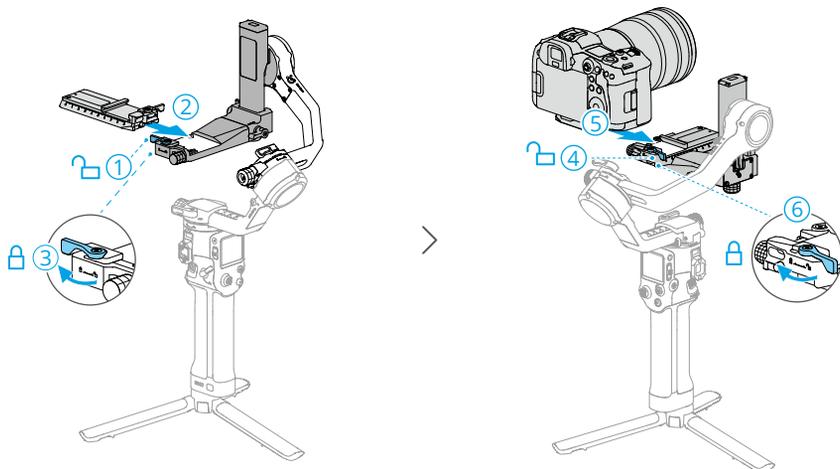
## 上部クイックリリースプレートの取り付け

ねじキットの 1/4 インチねじを使用して、上部クイックリリースプレートをカメラの底部に取り付けます。ねじをロックする前に、調整可能な配置ガイドをカメラ本体に装着します。



## 横向き撮影

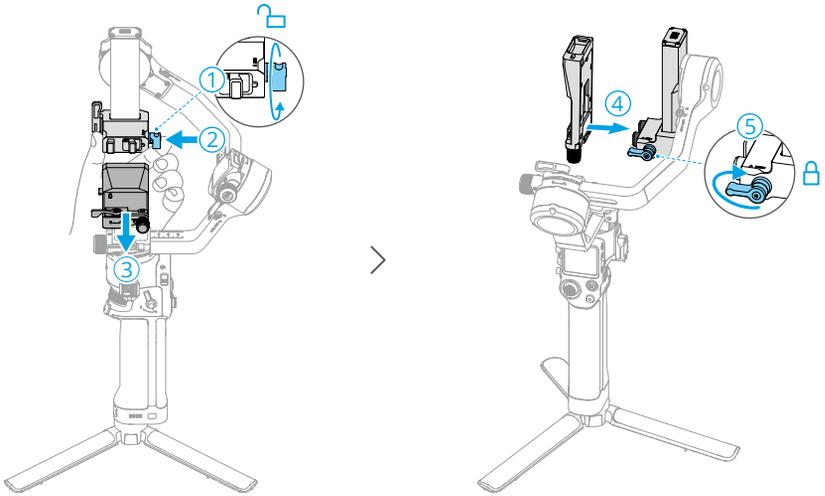
1. 水平プレートのレバーをロック解除位置①に動かし、下部クイックリリースプレート②を挿入します。プレートが固定されたら、レバーをロック位置③に動かします。
2. 下部クイックリリースプレートのレバーをロック解除位置④に動かし、上部クイックリリースプレート⑤を挿入します。プレートが固定されたらレバーをロック位置⑥に動かします。



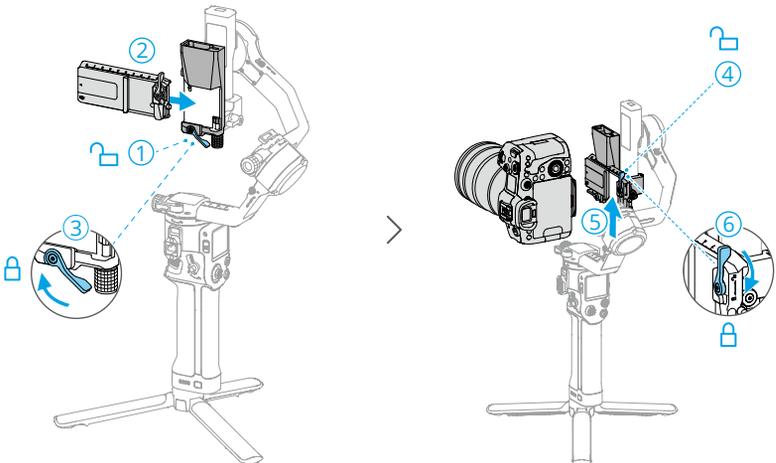
- ☀ • 下部クイックリリースプレートからカメラを取り外すには、レバーをロック解除位置に動かし、レバーの横にある安全ロックを押しながらカメラを取り外します。
- 下部クイックリリースプレートを取り外すには、水平プレートのレバーをロック解除位置に動かし、水平プレートの安全ロックを押しながら、下部クイックリリースプレートを取り外します。

## 縦向き撮影

1. ①を緩めてノブ②を押し、水平プレート③を取り外します。その後、プレートをジンバルに垂直に④取り付け、ノブ⑤を締めます。



2. 水平プレートのレバーをロック解除位置①に動かし、下部クイックリリースプレート②を挿入します。プレートが固定されたら、レバーをロック位置③に動かします。
3. 下部クイックリリースプレートのレバーをロック解除位置④に動かし、上部クイックリリースプレート⑤を挿入します。プレートが固定されたら、レバーをロック位置⑥に動かします。



## 2.4 バランス調整

ジンバルを使用する前に、撮影要件に従って、垂直チルト、チルト軸の奥行き、ロール軸、パン軸のバランスを順番に調整します。これにより、動画の安定性とジンバルの最大限の性能を確保します。

- ⚠ ジンバルがアンバランスな場合、動画の安定性に影響を及ぼし、バッテリーの寿命が短くなる可能性があります。極端にアンバランスな場合、デバイスが過熱してハイパネーションになる可能性があります。

### バランス調整を行う前に

1. 光学ズームレンズを使用する場合、バランス調整前に必ずカメラの電源を入れてください。可変焦点レンズを使用する場合、バランス調整前に焦点距離を選択してください。
2. バランス調整前に、電源がオフになっていること、またはスリープモードになっていることを確認してください。

### バランス調整の手順

リンクをクリックするか、QR コードをスキャンして、チュートリアルビデオを視聴してください。



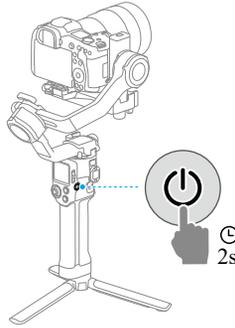
<https://s.dji.com/guide122>

## 2.5 アクティベーション

Ronin アプリを通じて DJI RS 5 のアクティベーションが必要です。デバイスをアクティベートするには、以下の手順に従ってください。

1. 電源ボタンを長押しして機器の電源を入れ、タッチ画面で言語を選択します。
2. タッチ画面の QR コードをスキャンして、Ronin アプリをダウンロードします。
3. スマートフォンの Bluetooth を有効にします。Ronin アプリを起動し、DJI アカウントでログインします。使用しているデバイスを選択し、デフォルトのパスワード「12345678」を入力し、指示に従ってジンバルをアクティベートします。アクティベーションにはインターネット接続が必要です。

ジンバルはアクティベーションせずに最大 5 回使用できます。それ以降の使用にはアクティベーションが必要となります。



機器の画面上の QR コードをスキャンしても Ronin アプリをダウンロードできない場合は、<https://www.dji.com/mobile/downloads/djiapp/dji-ronin> にアクセスするか、または下記の QR コードをスキャンしてください。



## 2.6 ファームウェアの更新

新しいファームウェアが利用可能になると、Ronin アプリから通知されます。画面上の指示に従ってファームウェアを更新してください。ファームウェア更新中は、ジンバルの電源を切ったり、アプリを終了したりしないでください。更新に失敗した場合は、ジンバルと Ronin アプリを再起動し、再試行してください。

- ☀️ • 更新する際は、ジンバルに十分な電力があり、携帯電話がインターネットに接続されていることを確認してください。
- 更新プロセス中にジンバルが自動的にロック解除、ロック、再起動するのは正常です。

## 2.7 カメラへの接続

DJI RS 5 は、Bluetooth またはカメラ制御ケーブル経由でカメラに接続できます。

リンクをクリックするか、QR コードをスキャンして、チュートリアルビデオをご覧ください。

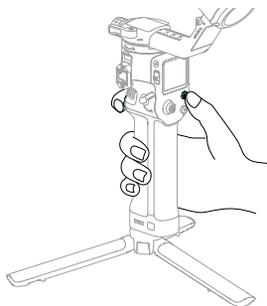


<https://www.dji.com/rs-5/video>

## 2.8 自動キャリブレーション

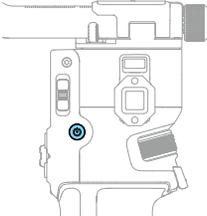
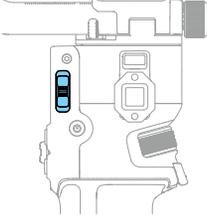
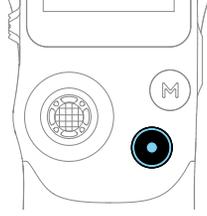
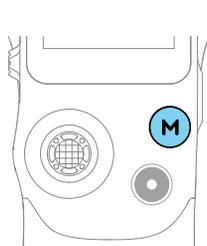
M ボタンとトリガーボタンを長押しして、自動キャリブレーションを開始します。

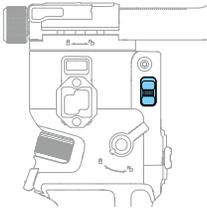
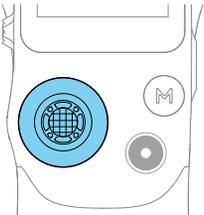
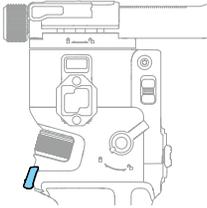
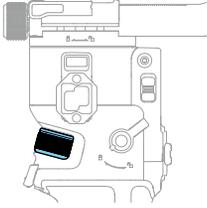
- ⚠ ジンバルを安定した平らな面に置いてください。自動キャリブレーション中はジンバルを動かさないでください。キャリブレーション中にジンバルが揺れたり、音がありますが、これは正常です。
- 



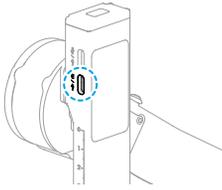
## 3 操作

### 3.1 ボタン

	<p><b>電源ボタン</b></p> <p>長押し：電源オン/オフ。</p> <p>1 回押し：スリープモードを開始/解除します。3 軸が自動的にロックされます。もう一度押しと、ジンバルが起動します。</p> <p> 自動軸ロックに関連する設定は、タッチ画面のシステム設定で調整できます。</p>
	<p><b>ジンバルモードスイッチ</b></p> <p>このスイッチで、ジンバルモードを PF、PTF、FPV 間で切り替えられます。</p>
	<p><b>カメラ制御ボタン</b></p> <p>カメラとの接続後に、半押ししてオートフォーカスにします。</p> <p>1 回押しと、録画を開始/停止します。長押しすると、写真を撮影します。</p> <p> 対応カメラ機能の詳細は、Ronin シリーズ互換性ガイドを確認してください。</p>
	<p><b>M ボタン</b></p> <p>1 回押しと、デフォルトで写真を撮影します。このボタン機能は、タッチ画面で [C1/Fn1 ボタンマッピング] または [画面のロック/ロック解除] に設定できます。</p> <p>長押し：スポーツモードに入ります。スポーツモードでは、ジンバルのフォロー速度が大幅に加速します。被写体が急に高速で動くようなシナリオでの撮影に適しています。</p> <p>M ボタンを長押ししながら、トリガーボタンを 2 回押し：スポーツモードに入り、その状態を継続します。同じ操作を繰り返すと、終了します。</p>

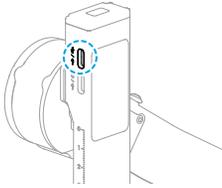
	<p><b>ジョイスティックモードスイッチ</b></p> <p>下に押す：ジョイスティックモードがジンバル動作制御に設定されます。</p> <p>上に押す：ジョイスティックモードがズーム制御に設定されます。</p>
	<p><b>ジョイスティック</b></p> <p>ジンバル動作制御：ジョイスティックを上下に動かしてジンバルのチルトを制御し、左右に動かしてジンバルのパンを制御します。</p> <p>ズーム制御：ジョイスティックを上下に動かしてズームを制御します。</p> <p> Sony 製カメラの電動ズームを有効にすると、ジョイスティックでカメラの電動ズームを制御できます。</p>
	<p><b>トリガー</b></p> <p>長押ししている間、ロックモードに入ります。ロックモードでは、ジンバルはグリップの動きに反応しません。タッチ画面での設定後、トリガーボタンを長押しすると、FPVモードに入ります。</p> <p>2回押しと、ジンバルを再センタリングします。</p> <p>3回押しと、ジンバルが180°回転し、カメラがユーザーの方を向きます（セルフイーモード）。</p>
	<p><b>フロントダイヤル</b></p> <p>デフォルトでは、回すとフォーカスを制御できます。タッチ画面から設定の変更ができます。詳細については、タッチ画面のセクションを参照してください。</p> <p> 対応機能の詳細は、『Ronin シリーズ互換性ガイド』を確認してください。</p>

## 3.2 ポート



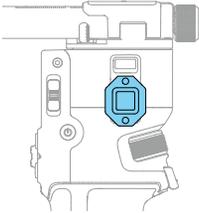
### カメラ制御ポート (USB-C)

対応するカメラポートに接続して、カメラの制御と通信を行うために使用できます。



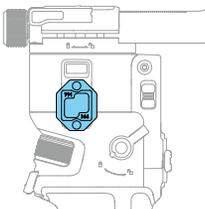
### 多機能ポート

DJI SDR Transmission、DJI Focus Pro Motor などのアクセサリを接続できます。



### NATO ポート

ブリーフケースハンドルやモニターなどのアクセサリに対応しています。このポートは充電および通信に対応していません。

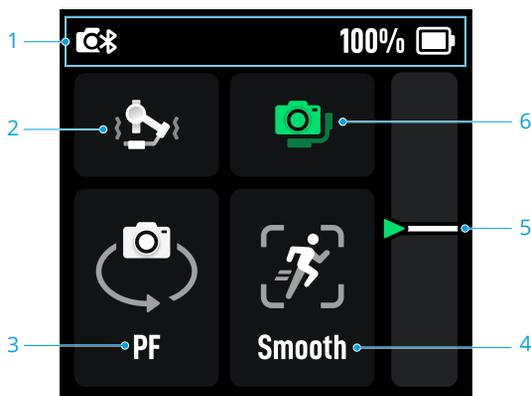


### RSA/NATO ポート

このポートは充電および通信に対応しています。DJI RS 電子ブリーフケースハンドル、DJI R フォーカスホイール、DJI R ツイストグリップデュアルハンドルに接続できます。

## 3.3 タッチ画面

### ホーム



#### 1. ステータスバー

タッチ画面上部のステータスバーには、ジンバルの接続状態とバッテリー残量が表示されます。

#### 2. 自動キャリブレーション

3つの値は、3つの軸の剛性を示します。

 ジンバルのバランス調整後に、焦点距離、レンズ、カメラの変更によりバランス状態アイコンが赤色に変わった場合、または原因不明でジンバルが揺れる場合は、自動キャリブレーションを実行することをお勧めします。ジンバルが十分に安定していない場合は剛性を高め、ジンバルが揺れ始めた場合は剛性を下げることをお勧めします。

#### 3. フォローモード

FPVモードは、タッチ画面で3Dロール360モードまたはカスタムモードに切り替えることができます。

#### 4. フォロー速度／感度

フォロー速度／感度アイコンをタップすると、低速、普通、高速、またはカスタムのフォロー速度を設定できます。複数の感度モードも利用できます。スムーズモードは、Roninシリーズスタビライザーのフォロー感度を継承しており、映像内で自然な移行とスムーズな開始・停止動作を実現します。レスポンスモードでは、ジンバルが開始・停止時の手の動きにより迅速に反応し、より応答性の高い体験が実現します。

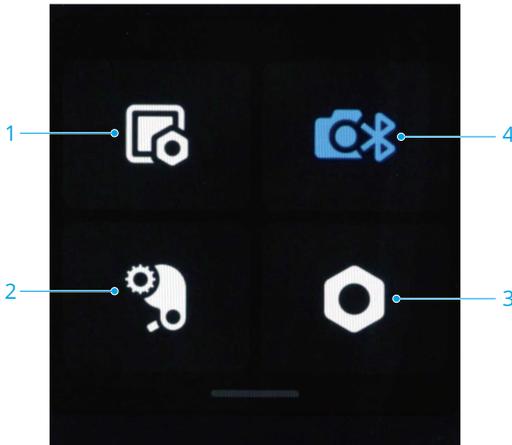
#### 5. Z軸インジケーター

垂直方向のジッターがリアルタイム指標として表示されます。

## 6. バランス状態

ステータスバーが緑色またはグレーの場合、ジンバルの均衡が取れていることを示します。ジンバルのバランス状態を確認するには、ジンバルを左右に 15°傾けてステータスバーを確認してください。ステータスバーが黄色の場合、ジンバルが少し均衡が取れていないことを示します。ステータスバーが赤色の場合、ジンバルが極度に均衡が取れていないことを示します。この表示が出たときは、対応する軸を再度バランス調整してください。

## 下にスライド：Control Center（コントロールセンター）



### 1. 画面

タップして自動ロック、ロック中の輝度、回転を設定します。回転を有効にすると、画面表示が 180°反転します。

### 2. フォーカスマーターエンドポイント

フォーカスマーターのキャリブレーションを選択できます。

### 3. 設定

システム設定メニューでは、ジンバルの自動チェック、自動ロック設定、パラメーターの復元を行うことができます。主な機能には次のものがあります。

- Z 軸インジケーター：デフォルトで有効になっており、タップすると無効になります。
- プッシュモード：チルト軸とパン軸を手動で制御することができます。
- オービットフォロワー：アークショット（被写体を中心に周回）撮影時に有効にすると、ジンバルの動きがスムーズになります。

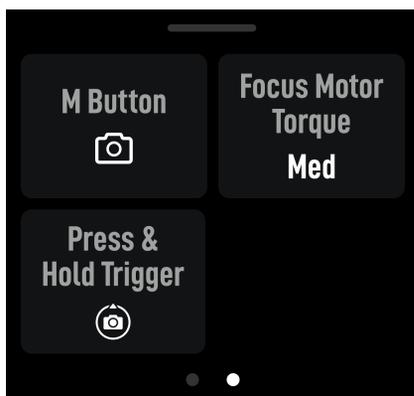
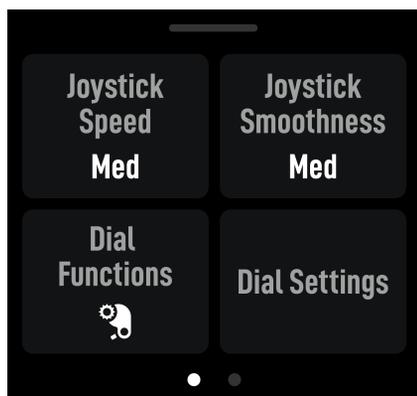
- 水平キャリブレーション：ジンバルが水平でない場合や軸がドリフトしている場合は、水平キャリブレーションまたは手動でのキャリブレーションを試行してください。
- カメラ制御ポート設定：有効にすると、カメラ制御ポート（USB-C）がカメラ制御機能を提供します。
- セルフィーの無効化：誤ってトリガー操作によりセルフィーモードに入ってしまうのを防ぎます。
- 自動オフ：ジンバルがロックされて非アクティブな状態が 10 分続くと、ジンバルの電源が自動的にオフになります。

#### 4. Bluetooth

[接続] をタップして、ジンバルとカメラの Bluetooth をペアリングします。

 ジンバルが一度に接続できるカメラは、1 台のみです。

## 上にスライド - ジンバル設定



このインターフェースでは、ジョイスティック設定とフォーカスマーターのトルクを調整できます。また、ダイヤルと M ボタンを押したときや、トリガーを長押ししたときの機能も選択できます。

M ボタンはカメラ C1 または Fn1 に割り当てることができます。設定後、M ボタンを、Sony 製カメラ（A7S3、A7M3、ZV-1）の C1 ボタン、または Nikon 製カメラ（Z50、Z6II）の「ワイヤレスリモート Fn1」ボタンに割り当てることができます。

## 左にスワイプ - 作成画面

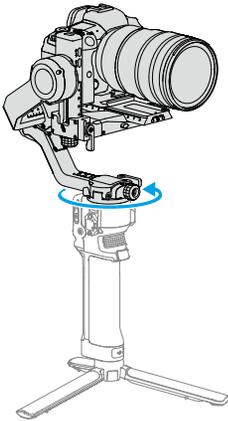
この画面では、タイムラプス、トラック、パノラマを設定できます。

## 右へスワイプ - アクティブトラック

強化型スマートトラッキングモジュールを接続すると、アクティブトラッキングビューが利用可能になり、このインターフェースから関連する設定を調整できます。

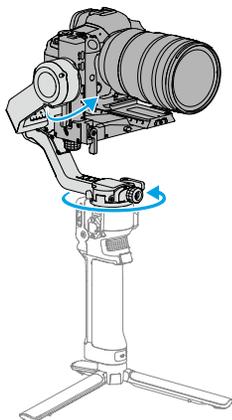
詳細については、[アクティブトラック設定](#)を参照してください。

## 3.4 ジンバルフォロモード



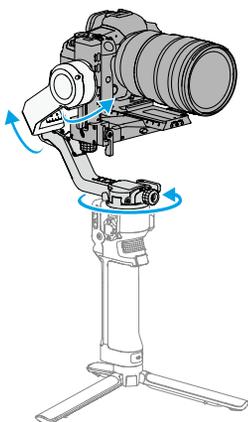
パンフォロー

PF：パンフォロー。パン軸のみがグリップの動きに追従します。  
ウォークスルーショット（ドアや門などを通り抜けながら撮影）やアークショット、左右の動きの多いシナリオでの撮影に適しています。



パン&チルトフォロー

PTF：パン&チルトフォロー。パンとチルトの両方の軸がグリップの動きに追従します。  
傾斜して動いているシナリオに適しています。



FPV

FPV：パン、チルト、ロールフォロー。3つの軸全てがグリップの動きに追従します。  
カメラが回転するシナリオに適しています。

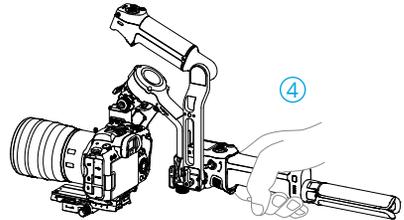
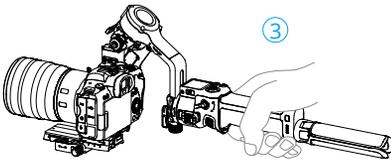
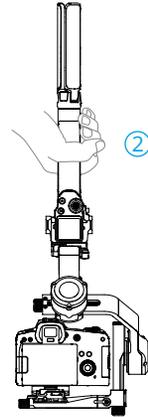
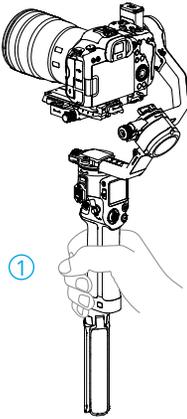
カスタム

カスタム：必要に応じて、任意の軸の追従を有効または無効にできます。3軸共に無効にした場合は、ロックモードが有効になります。ロックモードでは、3軸のすべてがグリップの動きに追従しません。  
スムーズなトラッキング撮影や迅速なリアクション撮影に適しています。

3D ロール 360

3D ロール 360 モードでは、チルト軸が 90°上に回転し、カメラレンズが真上を向きます。この位置で、ジョイスティックを使用してパン軸の 360°回転を制御できます。  
回転しながらの撮影に適しています。

## 3.5 ジンバル操作モード



### 1. アップライトモード

これはジンバルの標準操作モードで、歩きながらの撮影や走りながらの撮影など、ほとんどの撮影シナリオに適しています。

### 2. 吊り下げモード

ジンバルが反転し、カメラが低位置になります。このモードは、地上の被写体のトラッキングなど、ローアングル撮影に適しています。

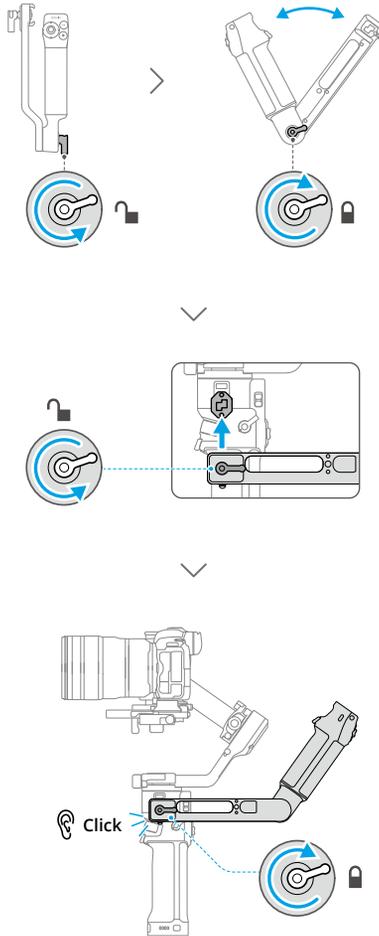
### 3. フラッシュライトモード

ジンバルがペンライトのように水平に保持されます。このモードは、狭い空間での撮影に適しています。

#### 4. ブリーフケースモード

このモードでは、ブリーフケースハンドルを取り付ける必要があり、ローアングルでのカメラワークがより直感的になります。ブリーフケースハンドルの角度はノブで調整できます。ジンバルのコールドシューと 1/4"-20 の取り付け穴により、外部モニターを取り付けて撮影をサポートできます。

### 3.6 電子ブリーフケースハンドル



ハンドル上のボタンを使って、ジンバルとカメラを操作できます。

比較的重いレンズを使用する場合は、片方の手でジンバルグリップを、もう一方の手で電子ブリーフケースハンドルを握り、重量を分散して安定性を高めてください。

ハンドルの上部にはコールドシューマウント、1/4 ネジ穴、位置決め用の穴が備えられており、追加のアクセサリを取り付けることができます。

**⚠** 正しく取り付けられていない場合、脱落するおそれがあります。ポートで「カチッ」という音がしたら、電子ブリーフケースハンドルが正しく取り付けられている合図です。

リンクをクリックするか、QR コードをスキャンして、チュートリアルビデオを視聴してください。



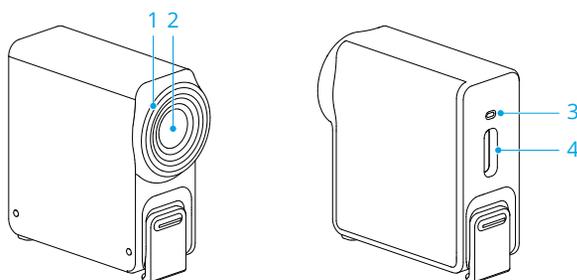
<https://www.dji.com/rs-5/video>

## 3.7 Ronin アプリの設定

ユーザーは、Ronin アプリを使用してジンバルをアクティベートし、ファームウェアを更新し、インテリジェント機能にアクセスし、モーターパラメーター、ユーザー設定、ジョイスティックオプションを構成できます。さらに、システムステータス、ユーザーマニュアル、チュートリアル動画にアクセスできます。

## 3.8 強化インテリジェント トラッキングモジュール

### 概要



#### 1. リングライト

##### バッテリー残量

 —	赤色点灯	アクティブトラックが無効(スリープモード中)または被写体を見失いました
 —	緑色点灯	アクティブトラック使用中
 .....	緑色点滅	被写体を一時的に見失いました
 —	黄色点灯	構図を調整中



黄色点滅

写真撮影または録画のカウントダウン（3秒間の点滅後にシャッターが作動）

2. トラッキングレンズ
3. ステータスインジケーター

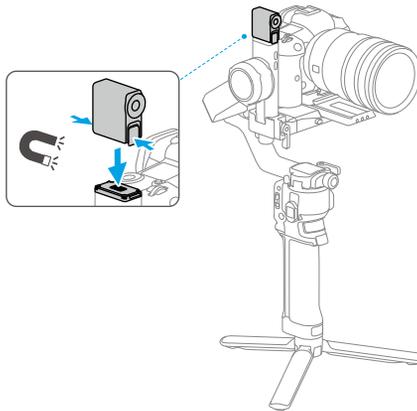


光信号と意味はリングライトと一致しています。

4. データポート (USB-C)

パソコンに接続してファームウェアを更新します。

## 取り付け



- トラッキングモジュールを取り付けた後にインジケーターが点灯しない場合は、トラッキングモジュールが磁力によってジンバルに完全に取り付けられているか確認してください。
- トラッキングモジュールが5分以上アイドル状態になると、自動的にスリープモードに入り、インジケーターがオフになります。ジンバルトリガーをタップするか、またはタッチスクリーンを右にスワイプして、トラッキングモジュールを起動します。

## アクティブトラック設定

トラッキングモジュールを取り付けた後、をタップすることで、設定インターフェースに入り、関連機能を設定できます。主な機能には次のものがあります。

## 構図

ActiveTrack で [現在のフレーミングを維持する] が有効になっている場合、ジンバルは現在の構図を維持します。

構図が [被写体セントラッキング] に調整されると、トラッキングされる被写体はアクティブトラックビューの中央に移動します。

- 💡 [被写体セントラッキング] では、カメラ、レンズ、撮影距離の違いにより、アクティブの実際の中心がずれてしまう場合があります。常に中央を維持できるとは限りません。構図が中央になっていない場合は、ジョイスティックを使用して調整してください。

## アクティブトラック速度

低速ではトラッキングがスムーズになるので、ライブ配信に最適です。

中速は並行トラッキングに適しており、高速はクローズアップの旋回撮影や動きの激しいシーンに最適です。

## 画像キャリブレーション

アクティブトラック画面の中心がカメラ画面の中心からずれている場合は、**画像キャリブレーション**をタップして構図を調整します。

ジョイスティックを左右に倒してアクティブトラック画面の構図を調整し、カメラビューの構図と一致させます。

## トラッキングと撮影

トラッキングモジュールは、人物、車両、ペット（猫と犬）などの物体のトラッキングをサポートします。被写体の種類によって、トラッキングや撮影を制御するために使用できるオプションが異なります。

被写体	アクティブトラックを有効にする / 無効にする	構図の調整
人物	使用： トリガー ジェスチャー タッチ画面	使用： ジョイスティック ジェスチャー
ペット（猫、犬）、車両	使用： トリガー タッチ画面	使用： ジョイスティック
その他の物体	使用： タッチ画面	使用： ジョイスティック

- 💡 • 逆光や低照度のシナリオでの使用は推奨されません。

- トラッキング中は、被写体との距離を 0.5 m～10 m に保ってください。(24 mm の焦点距離で測定。)
- 人物以外の被写体をトラッキングする場合は、トラッキング中、被写体がアクティブトラック画面の少なくとも 10% を占めるようにしてください。
- 車両向けのアクティブトラックは、単一車両を対象としたシーンを想定しており、高速で走行する車両のトラッキングを想定していません。車両の場合は、車両全体がアクティブトラック画面内に完全に映るようにしてください。
- ペットフォローは、一匹のペットをトラッキングする場合のみ対応しています。

## ボタンとジョイスティックによる操作

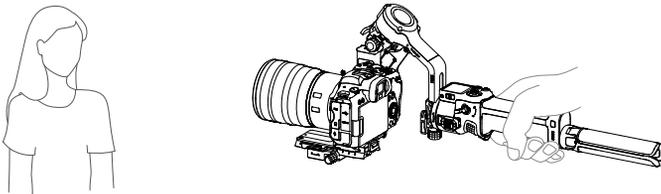
トリガーボタンを押すと、アクティブトラックを有効または無効にできます。

被写体がフォローされていて、**現在のフレーミングを維持する**が有効になっている場合、ジョイスティックを使用して構図を調整できます。

トリガーボタンを 2 回押すと、アクティブトラックを無効にして、ジンバルが中央に戻ります。

- ☀ 撮影中は、ジンバルのモードスイッチを使用してトラッキングモードを調整できます。パンフォロー (PF) モードでは、パン軸のみフォローします。パン&チルトフォロー (PTF) モードでは、パン軸とチルト軸の両方でフォローします。パン/チルト/ロールフォロー (FPV) モードでは、トラッキングはサポートされません。

中低カメラ位置から撮影する場合、ジンバルハンドルは、フォローする被写体の方向を向いている必要があります。

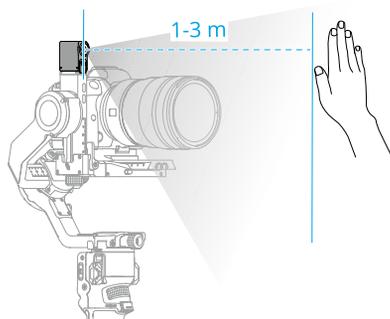


## ジェスチャーによる操作

- ☀ • トラッキングモジュールは、レンズに近く、ビューの中心に近い被写体を優先してフォローします。
- トラッキングする被写体は、トラッキングレンズから 1 m～3 m 離れている必要があります。

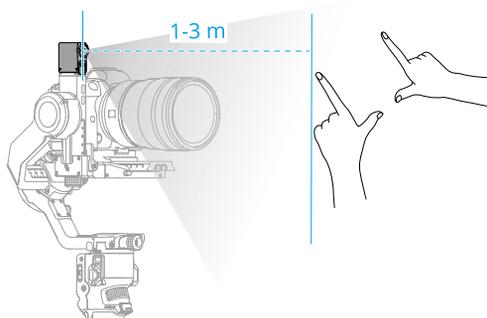
- アクティブトラックの設定で、ジェスチャーとその機能を変更できます。

トラッキングを有効にする：カメラに  ジェスチャーを見せるか、トリガーを押します。インジケーターが緑色に点灯します。



**構図の調整:**トラッキング中に必要に応じて構図を調整します。カメラに   ジェスチャーを見せます。インジケーターが黄色に点灯します。被写体はフレーム内の好きな位置に移動できます。

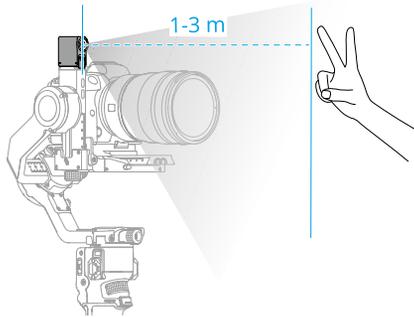
再度   ジェスチャーを見せて、構図を確認します。インジケーターが緑色に点灯し、トラッキングが自動的に再開します。



トラッキングを停止する：再度  ジェスチャーを見せるか、トリガーボタンを押します。インジケーターが赤色に点灯します。

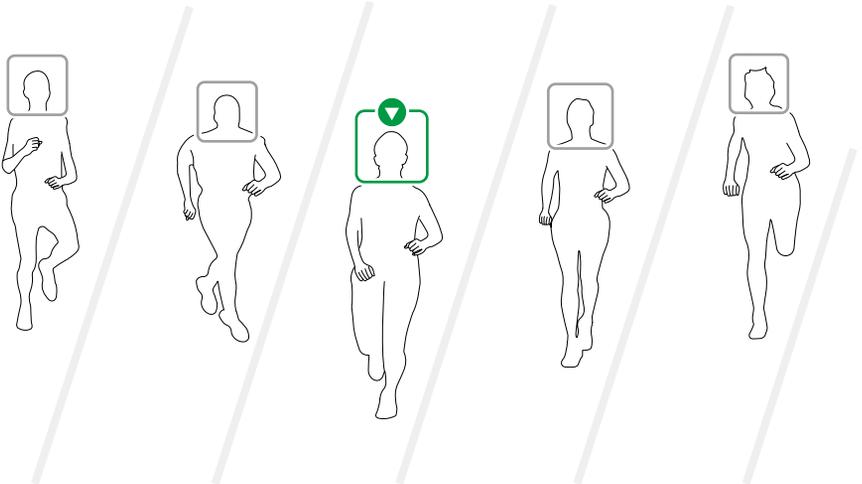
**撮影:**トラッキングの使用有無に関わらず、 を使用すると、カウントダウンを開始して写真を撮影したり、録画を開始/停止したりすることができます。カウントダウン中、インジケーターは黄色に点滅します。

💡 ジンバルとカメラが事前に接続されていることを確認してください。



## タッチ画面での操作

検出された被写体は、灰色のバウンディングボックスで表示されます。ダイヤルを回すと、複数の被写体が切り替わります。ダイヤル機能がフォーカスマーターに設定されていて、フォーカスマーターが取り付けられていない場合にのみ、利用できます。



任意のバウンディングボックスをタップして、被写体を選択し、トラッキングを開始します。

また、タッチ画面上で、被写体の周囲を囲むようにドラッグして枠を描画することで、トラッキングを開始できます。

💡 • 選択した被写体の輪郭が、明確かつはっきりしていることを確認してください。

## ファームウェアの更新

ファームウェアを更新するには、トラッキングモジュールをパソコンに接続する必要があります。

1. 対応するファームウェアパッケージをダウンロードするには、<https://www.dji.com/rs-5/downloads> にアクセスしてください。
2. 付属の USB-C ケーブルを使用して、トラッキングモジュールをパソコンに接続してください。
3. ダウンロードしたファームウェアパッケージ（拡張子が **.bin** のファイル）を、トラッキングモジュールのルートディレクトリに配置してください。
4. コピーが完了したら、USB 接続を解除してください。
5. トラッキングモジュールをパソコンに再接続します。トラッキングモジュールは自動的にアップデートプロセスを開始します。ステータスインジケータが赤色と緑色に交互に点滅します。プロセス中に接続を切断しないでください。
6. ステータスインジケータが赤色のまま点灯している場合、アップデートが完了したことを示します。

## 4 グリップ/内蔵バッテリー

ジンバルのバッテリーとジンバルの稼働時間に関する情報については、<https://www.dji.com/rs-5/specs> を参照してください。

### 4.1 安全ガイドライン



ユーザーマニュアルをよく読んで機能に習熟してから、本製品を操作してください。本製品を正しく操作しないと、本製品や個人の財産の損害や重傷を引き起こすおそれがあります。本製品は高度な機能を備えています。慎重かつ良識を持った操作とともに、基本的な機械知識が求められます。本製品を安全かつ責任を持って操作しないと、傷害や本製品またはその他の財産の損害を招くおそれがあります。

本製品は、大人の監督下のないお子様の使用を想定していません。SZ DJI TECHNOLOGY CO., LTD が提供する資料に記載されている以外の方法で本製品を改造しないでください。本安全ガイドラインには、安全、操作、メンテナンスの手順を記載しています。本製品を正しく操作し、損害や重傷を避けるためには、組み立て、設定、使用の前に、ユーザーマニュアルに記載されている手順と警告をすべて読み、これに従うことが重要です。

#### グリップの使用

1. グリップはいかなる液体類にも触れないようにしてください。グリップを雨にさらしたり、湿気の多い場所に放置したりしないでください。グリップを水に入れないでください。バッテリー内に水分が入ると、化学分解が発生し、バッテリーが発火したり、爆発につながったりするおそれがあります。
2. グリップが誤って水中に落ちた場合は、グリップをすぐに安全な開けた場所に置いてください。完全に乾燥するまで、グリップから安全な距離を保ってください。そのグリップは以後使用せず、「グリップの廃棄」の記載に従って、適切にグリップを廃棄してください。
3. 水、砂、消火用毛布、あるいは乾燥粉末消火剤を使って消火してください。
4. グリップに膨張、漏れ、損傷がある場合は使用しないでください。グリップに異常がある場合は、DJI または DJI の正規代理店にご連絡ください。
5. グリップは-20°C~45°Cの温度範囲で使用してください。50°Cを超える環境でグリップを使用すると、火災や爆発につながるおそれがあります。0°C以下でグリップを使用すると、駆動時間を大幅に減ります。

6. 強い静電環境や電磁環境でグリップを使用しないでください。そのような環境では、バッテリーの制御盤が誤作動する恐れがあります。
7. いかなる方法でもグリップを分解したり穴をあけたりしないでください。バッテリーの漏れ、発火、爆発が起こるおそれがあります。
8. バッテリーを落下させたり、叩いたりしないでください。グリップや充電器の上に重量のある物を置かないでください。
9. バッテリーの電解液には非常に高い腐食性があります。電解液が皮膚に触れたり、眼に入った場合には、ただちに流水で 15 分間以上洗い流してから、すぐに医師の診察を受けてください。
10. 落下した場合は、グリップを使用しないでください。
11. バッテリーを加熱しないでください。電子レンジや高压容器内にグリップを入れないでください。
12. 手でグリップを短絡させないでください。
13. 清潔な乾いた布でグリップ端子を清掃してください。

- 
-  1. 使用前にグリップが完全に充電されていることを確認してください。
2. ローバッテリー警告が表示されたら、できるだけすぐにグリップの充電を行ってください。
- 

### グリップの充電

---

-  1. 充電中にグリップを放置しないでください。可燃物の近くやカーペット、木などの燃えやすい物の上でグリップを充電しないでください。
2. グリップを 5°C~40°C の温度範囲外で充電すると、漏れ、過熱、バッテリーの損傷に至るおそれがあります。推奨する充電温度は 22°C~28°C です。
- 

-  グリップは、完全に充電されると充電を停止する設計になっています。ただし、充電の進捗状況を監視し、完全に充電したらジンバルの接続を取り外すことをお勧めします。
- 

### グリップの保管

---

-  1. グリップはお子様やペットの手の届かないところに保管してください。
2. グリップを長期間保管する場合は、バッテリー残量が 30%~50% になるまでグリップを充電してください。
3. 暖炉やヒーターなどの熱源の近くにグリップを放置しないでください。暑い日にグリップを自動車内に放置しないでください。推奨する保管環境温度は 22°C~28°C です。
4. グリップを乾いた状態で保管してください。
- 

-  1. グリップを 10 日以上使用しない場合は、40~65% までグリップを放電してください。これにより、バッテリーの寿命を大幅に延長できます。
-

2. グリップを完全に放電した後で長期間保管しないでください。バッテリーが過放電し、バッテリーセルが損傷して修理不能になるおそれがあります。
3. グリップが長期間保管されバッテリーが消耗すると、グリップはスリープモードに入ります。スリープモードを終了するにはグリップを再充電します。

---

### グリップのメンテナンス

---

- ⚠ 1. 極端な高温や低温でグリップを使用しないでください。
  - 2. グリップは、45°Cを超える高温環境および0°C未満の低温環境で保管しないでください。
- 
- 💡 1. 長期間使用しないと、バッテリーの寿命が短くなることがあります。
  - 2. グリップを良好な状態に保つために、3 ヶ月に 1 回はグリップを完全に放電したあとに完全に充電してください。
- 

### 移動時の注意事項

---

- ⚠ 1. グリップを航空機に持ち込む場合は、あらかじめ放電してバッテリー残量を 30%未満にしておく必要があります。グリップは耐火性の場所でのみ放電し、通気性の高い場所で保管してください。
  - 2. グリップを眼鏡、時計、宝飾品、ヘアピンなどの金属に近づけないでください。
  - 3. 損傷したグリップや、バッテリー残量が 30%を超えるグリップを搬送しないでください。
- 

### グリップの廃棄

---

- ⚠ 完全に放電してから、指定のリサイクルボックスに入れてグリップを廃棄してください。通常のゴミ容器にグリップを入れないでください。バッテリーの廃棄やリサイクルに関する現地の規制を厳守してください。
- 
- 💡 1. グリップが不能になり、バッテリーを完全に放電できない場合は、電池の廃棄またはリサイクル業者に問い合わせ、サポートを受けてください。
  - 2. グリップの過放電後、電源が入らない場合は、すぐにグリップを廃棄してください。
-

## 5 付録

### 5.1 メンテナンス

ジンバルは防水ではありません。使用中は埃や水から保護してください。使用後は、ジンバルを柔らかい乾いた布で拭き取ることをお勧めします。ジンバルに洗剤を吹きかけないでください。

### 5.2 仕様

仕様については、以下のウェブサイトを参照してください。

<https://www.dji.com/rs-5/specs>



お問い合わせ

DJI サポート

本内容は予告なく変更される場合があります。  
最新版は下記よりダウンロードしてください



<https://www.dji.com/rs-5/downloads>

本書についてご質問がある場合は、DJI（[DocSupport@dji.com](mailto:DocSupport@dji.com) 宛にメッセージを送信）までお問い合わせください。

DJI は、DJI の商標です。

Copyright © 2026 DJI All Rights Reserved.